

# 稻富紀美江様を偲んで



職場や旅、 その他の場で ご一緒したメンバー一同からの

## メッセージ集

写真はベトナムの旅でご一緒したときの写真です。娘さんがサポート役で一緒に参加されました。(ハロン湾の船の中)  
韓国、台湾、ベトナム、中国、そしてカンボジアなどアジアと一緒にまわりました。もっとご一緒したかったです。(旅仲間)

意志を貫き通す逞しさと優しさの方

山本隆憲

芳和会本部の勤務となつたときに、本部で看護部長をされていました。

稻富さんは、いつも私より遅く帰っていましたが、翌日は朝早くから本部に出勤していました。自宅での睡眠時間は3時間程度で、朝の食事は車中食だと言つておられました。

どんな困難にも屈せず、自分の意志を貫き通す逞しさと優しさを教えていただきありがとうございました。安らかにお眠りください。

素晴らしい 先輩 今村 須美子

1985年頃で、希望ヶ丘診療所で初めてお会いしました。

看護協会の総会で、堂々とそして凛として看護を良くする会の代表として意見を述べられていた姿が立派でした。

いつもOB会の会報が届くと、お礼の電話をしてこられてしばらくお話ししていました。ずっとOB会を支えてくださいました。全てにおいて素晴らしい 先輩でした。



カンボジア アンコール空港にて 2017年5月21日



## 優しくて知的で冷静

渡瀬邦子

多分、私が平和診療所に入職した後、希望ヶ丘診療所の師長をされていました。私は平和診療所に入職した後、希望ヶ丘診療所の師長をされていました。美人で優しくて知的な看護師さんでした。

一緒に仕事をしたのはくわみず病院が開院したての一年間だけでした。その頃稻富さんは総師長をされていて、できたばかりの病院で全てのことに心を碎いて苦労されていました。会議では若いDr達の遠慮のない批判にも声を荒げることなく冷静に受け止めておられるのが印象的で、稻富さんしかできないことだと感心していました。看護師業務もトラブル続きで夜勤予定の看護師が来なかつたり、患者さんとの問題が発生したりで落ち着く間がなかつたと思います。

優しい笑みで天国から世界の平和を見守ってください。

## 職場でも退職後の旅でも一緒に

渡邊 孝宏

稻富さんとの出会いは、希望ヶ丘診療所に入職した時です。その時は事務職で、娘さんをつれてスケートに行つた記憶があります。その後、保養院に移り看護職、県連で看対の仕事についた時、看護部長は退職されたように思います。

その後、2012年中国旅行・2014年6/23~27台湾旅行・2015年5/5~5/8ベトナム旅行・2017年5/21~25カンボジア旅行・2018年6/2~6/4台湾旅行と一緒に参加させて頂ました。

何事にも積極的に興味を示され、カンボジアでは蟻を稻富さんが食べるので見て試食した記憶があります。

ご冥福を祈ります。

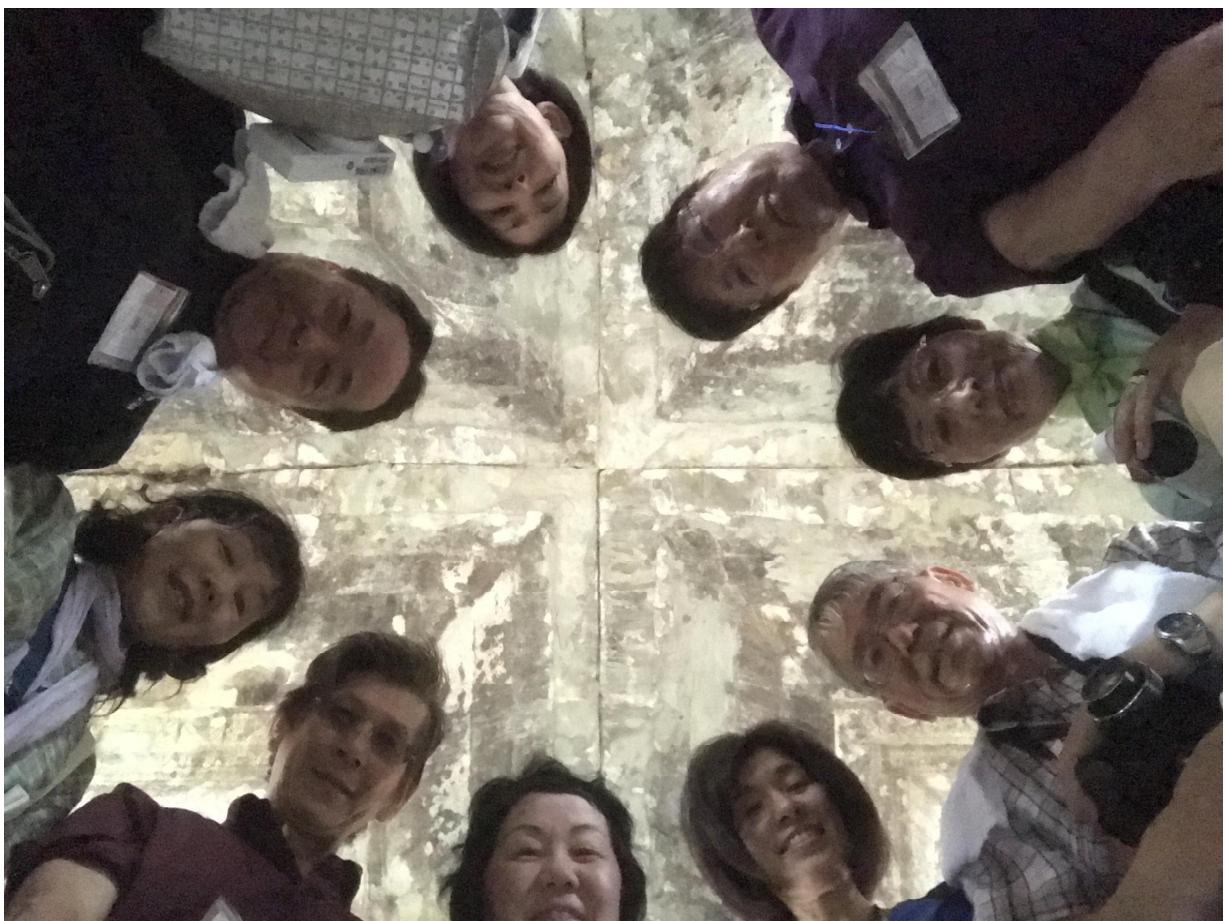
## 都会的なセンス素敵な方！

吉尾 邦子

まだ済生会病院に勤めていた24歳の頃、新しい診療所を立ち上げるからと誘いがあり、楠一丁目?の建設準備の事務所でお会いしのが初めてだつたと思います日産の黄色いサニーで自宅まで送つて下さいました。今まで出会つた婦長さんは違つた都会的なセンス素敵な方！というのが最初の印象です。

私にとつての稻富さんは、希望ヶ丘診療所の婦長さんです。開所してまもない頃、仕事終わりに稻富さんについて赤旗新聞拡大の訪問を度々しました。診療圏外を飛び入りでまわつたものです。全く増えなかつたように記憶してますが、訪問先の方の反応に帰り道二人で大笑いした事は今でも思い出します。

稻富さん、私達の働いた時代は「24時間たたかえますか」という健康ドリンクのコマーシャルが流れた時代でしたね。在職時は本当に良く働かれましたね、思慮深く何事にもきちんととした対応をされ、仕事は緻密にこなされるその精神力はどこから生まれたのですか？退職されてからは絵画や太極拳と趣味の世界に羽ばたかれ才能を発揮されました。病気とも看護師らしく向き合われ、命つくるまで頑張られたのではないでしょうか。私達も日々を大事に一つひとつ的事に諦める事なく向かいあつて生きて行きたいと思います。ちゃんとしてるか見守つて下さい、これまでそそいで下さった沢山の愛に感謝しつつ。



稻富さんの思い出 田中克己

稻富さんに初めて会ったのは、たしか私が民医連に入職する2年前だったと思います。

私が十二指腸潰瘍で他の病院から希望ヶ丘に転院し薬をいただきに行つたとき、稻富さんから「薬を飲むだけではダメですよ、規則正しい生活をしなければ」と真剣に言われたのを思い出します。その頃の私は、組合活動で食事を取つたり取らなかつたりしていたときです。私は、そんな規則正しい生活はとても出来ないと心では思つっていました。その後が2年後希望ヶ丘に入職しました。

稻富さんと私は希望ヶ丘での1年間でした。なぜなら、稻富さんはくわみず病院に行かれました。その1年間で心に残っていることは、稻富さんは夜遅くまで仕事をされていたようでした。思い出は、顔ににやわづ「ゲテモノ食いだ」と言うことです。あるとき職員で食事に行つたとき、その店が「ゲテモノ料理を出される店だったのです。食事の途中にその「ゲテモノ(バッタ、かえる)料理が出されて、みんなは手をつけずにいると、稻富さんは「ゲテモノ料理が好きだ」と言われ食べておられたのを思い出します。

旅先では、何でも興味を持たれて、突進されていました。宿での交流シーンでは、我々庶民の会話にもちゃんと真剣に加わってくださいました。

カンボジア シエリムアップにて 左娘さんと



### 語学も絵画も太極拳に旅も一生懸命

長谷川博

正式な出会いは希望が丘診療所一九七六年二月だったでしょうか。

カンボジア、ベトナム、韓国、台湾をご一緒しました。それぞれの地での思いでが多いです。韓国では偽ブランドのバッグをさらに値下げ交渉、大喜びされておられました。そのバッグは一度も使わずに壊れたような・・カンボジアでは蟻が調味料になつてているという案内人の言葉を信じて、木の葉っぱの上の蟻を捕つて食べて感想を「ちょっと酸っぱいかな」とか。

とても真面目な方で3時間ごとに目薬をさしてと医師の指示があつたら、旅先でも時計に3時間おきにタイマーを仕掛けて真夜中に目薬をさされていたとか（これは妻の話を聞いて本当か嘘かは確かでないけど）人の話を信じてとても忠実な行動をされていました。

勤務先の駐車場でフランス語の勉強をされていたことも。中国旅行では、現地の方と船上で中国語で意思疎通を試んでおられてことが印象に残っています。太極拳や絵画などいろんな活躍をされていました。厳しい方でしたが優しい方でもありました。

ご冥福をお祈りします。



**民医連看護を語り皆を引っ張る責任者 吉田京子**

せん。稻富さん、いつまでも私たちと看護の未来を見守っていてくださいね。今までありがとうございました。

稻富さんが亡くなられたことを聞き、友の会事務所でお会いしたのはいつだつたかな?と思い返しました。細身のお体を心配に思いましたが、またお会いできるだろうと思つていました。

稻富さんは、私がくわみず病院開設の翌年に直接に伺つたとき、対応していただいたのが初対面でした。その時も、患者さんの横で点滴スタンドを持ち移動されていて、総婦長さんが病棟を手伝つておられる様子にちょっと驚きました。今思うと、まだ看護体制も準備段階だったのでしよう。くわみず病院の立ち上げにたくさん苦労があつたと思います。

看護部のいくつかの委員会で一緒にやらせてもらいましたが、看護学生対策委員会では、学生さんに民医連看護を知つてもらうための色々なアイデアや確保に向けた企画を話し合いました。稻富さんはとても粘り強く一つのことについても納得するまで話し合う方でしたのでいつも会議時間は長くなつていたように覚えてています。私に欠けている部分ですが、稻富さんには自分の信念をもつて、民医連看護を語り皆を引っ張るという責任者の姿勢を教えていただきました。

看護部長になられ、芳和会でヘルパー養成講座を開くということを決め実行されました。当時まだそういう養成は少なかつたと思います。その時、私は稻富さんから講師を依頼され、「私にできるかな」と戸惑いましたが、挑戦と思い引き受けて食事介助やシーツ交換、清拭など受講生の方と楽しくやり取りしたこと覚えてています。そしてヘルパーが誕生し芳和会の事業所に勤める方も出てきました。

退職された後も、医療機能評価受審の後や節々に声をかけて下さり、「頑張ってるね」と励ましの言葉をいただき、折れそうなときもまた頑張ることができました。

私は、恩師はいつまでも存在して顔を拝見することができると思っていましたが、亡くなられたことを聞いてもまだ実感できていま



台湾・タロコ渓谷にて



1986年11月15日 九州民医連学術集談会への参加



1981年7月 くわみず病院開院前の子どもキャンプ



1987年4月29日 保険医協会無料相談会



1987年10月24日 平和の波行動へ参加（中央）

## 希望ヶ丘診療所では家族ぐるみに

石原須摩子

私が民医連に入職したのは確か1975年だと思います。希望ヶ丘診療所に就職が決まりオープンの準備の時に入りました。

くすのき団地の一戸建てを建設委員会の場所に借りそこを拠点に動きまわっていました。宣伝のため団地の集会所を借りてあつちこつち検診活動をかなりしたと思います。くすのき団地は5階建てで毎日そこを上つてはおりて検診の案内のビラ巻きです。当時は若かったので毎日、毎日汗だくになりながらビラ巻きをしました。終わつた後みんなで食べたアイスクリームの美味しかったことを思い出します。

最初の時から稻富さんも一緒に建設準備活動をしていました。やはり夜遅くまで仕事をされていました。昔はみんな仲が良く稻富さんの家にも遊びにいきました。浩子ちゃん、よしこちゃんともいつしょで仲良しでした。そして1976年に診療所がオープン。

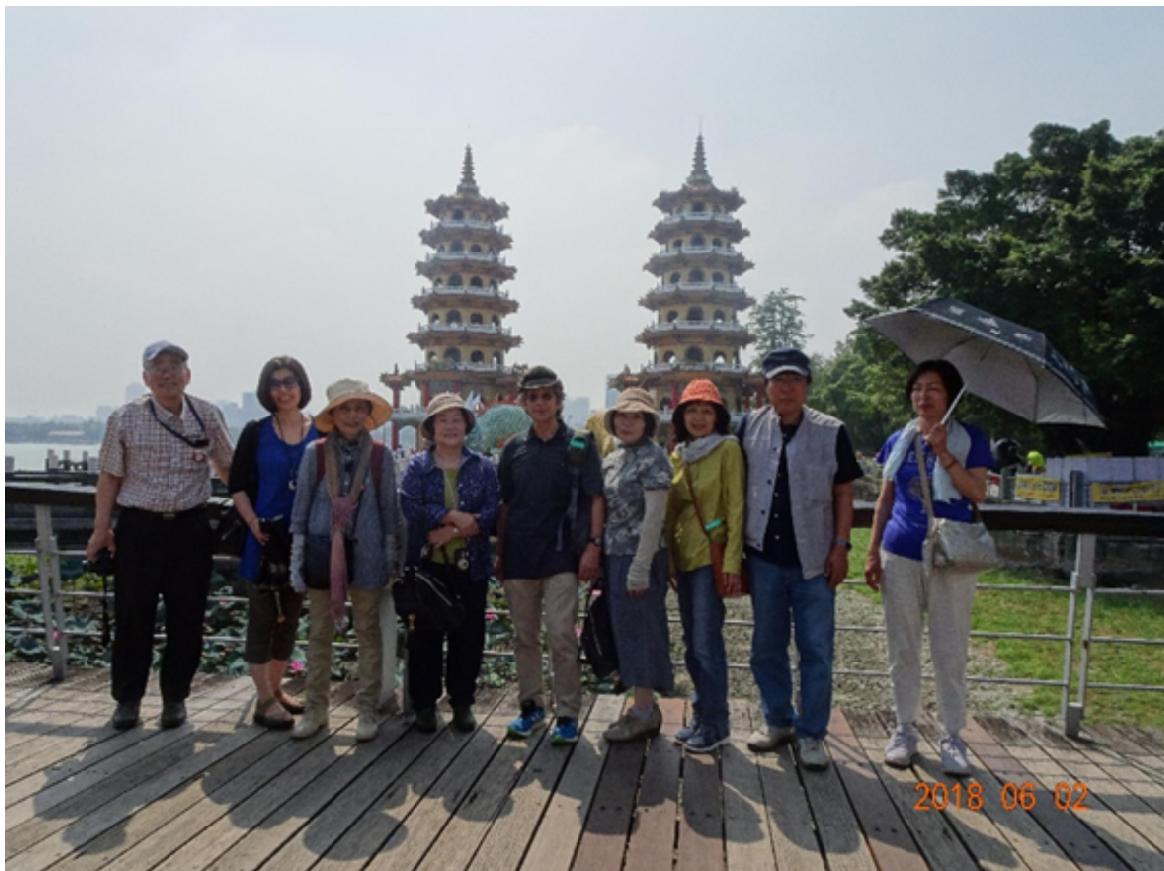
あんなに宣伝したのに患者さんが少なく増えないのです。稻富さんは毎日、毎日夜遅くまで残つていろいろ仕事をされていました。オープン時クリニックの玄関に患者さんの靴が少ないといけないので他の人の靴まで並べて賑やかなようによそおつていたような気がします。最初はとにかく大変でした。オープン後もなかなか患者さんが増えなくていつになつたら増えるんだろうと皆で話をしていました。最初は医師体制も不安定で苦労がたえなかつたと思います。

そういう中で稻富さんはクリニックの責任者として本当に粘り強くいろいろあの手、この手を考えてやられていました。とても根性のある方でした。

建設委員会にて（左端）



台湾・高雄にて  
2018年6月2日



稻富さんへ 「追悼」 西山直（荒尾在住）

稻富さんの訃報を知り、残念でなりません。

稻富さんは芳和会へ入職当時、希望ヶ丘診療所建設に共に関わり、苦難を共にしてきました。私は医療についてはづぶの素人で、稻富さんは荒尾市民病院等を経ての経験豊かなベテラン看護師さんで、婦長（当時名称）として力を発揮していただき大変助けられたことが思い浮かびます。

また、その後5年ほどして芳和会が新たに内科の病院建設を計画しましたが、そこでも稻富さんが婦長、私が事務長に任命されて、再び草創期の苦労を共に歩んできました。

一気に増えた看護集団のまとめ役として、大変な苦労をされていました。時折、二人の娘さんの話になると顔がほころんでいた事が懐かしく思い出されます。

任務が変わつてからは、会うたびに心身の心配を声かけしてくれるような方でした。かけがえのない仲間を失いました。

残念でなりません。心からご冥福をお祈りいたします。



1991年のくまもと健康まつり

樋畠とまへ 濱松いくみ

最初にお顔を拝見したのはくすのきクリニック開院の時だったと思います。職場を一緒にすることができませんでした。しかし、婦長会議や研修会、介護保険の始める前の打ち合わせ会議、たくさんの里の準備での待合室、意見・討論など多くの場所で意見交換しました。

いつも理路整然とされた、自分の意見はきちんと聞かれていましたね。私は尊敬もし表ました。退職されてしましました。闘病されていて咳をしながらも一生懸命話しあげて下さいありがとうございました。命のある間に一度…お話をかけたかったです。そないでゆっくりお休みください。ご冥福をお祈りいたします。



くわみず病院看護師長時代 看護部会議の風景 右から3番目

## ニコニコと笑顔の素敵な先輩看護師さん

長谷川伊佐子

稻富さんと最初にお会いしたのは、看護の教育学習委員会で水俣から会議に出てきた時でした。美人でスマートな師長さんで民医連看護の理念等をしつかり語って頂いた記憶があります。その後、私がくわみず病院に異動後、全日本の看護委員長会議が北海道で開催され、一緒に参加し楽しかった思い出があります。当時の九沖ブロックの看護委員長さんははずーっと交流を続けてこられたようで、昨年、熊本でランチ会をしましたと喜んで話されていました。

くすのき診療所時代は医師不足で大変な思いをされ、くわみず病院時代も医師・看護師不足と困難な時代を乗り越え頑張つてこられました。看護部長時代も、みんなが知つてるように帰宅は午前様だつたと。随分無理をされていましたと思いますが、稻富さんはいつもニコニコと笑顔の素敵な先輩看護師さんでした。

定年後は、私も希望が丘診療所時代の方々とアジア近辺と一緒に旅行しました。上海に行つた時、現地の人と中国語で話されたり。カンボジアではガイドさんから食べられる蟻と説明を受け「どれどれ・・」と本当に食べられたり、台湾のタロコ峡谷では現地の変わった帽子を茶目つきたっぷりにかぶつて購入されたり、いつまでも好奇心の強い面を見ました。趣味の水彩画は十年以上続けられ、入賞されたりと多才な方でした。

熊本民医連の苦難の時代を粘り強く諦めず医療・看護に情熱を捧げて今日の熊本民医連の看護の礎を築いてこられたことに感謝します。

近年は体調も思わしくなく苦しかった日々ではないかと思いますが、これからは、ゆっくり安らかに、心よりご冥福をお祈りします。



くわみず病院草創期を作った方 大柄 学

冷静で仕事も丁寧

小林久美子

初めてお会いしたのは1980年頃でしょうか

採血をしてもらったことがあります。エイツと針を素早く血管内に差し込み、採血。痛くなく採血がうまいという印象が残っています。

我慢強い方で身を粉にして働いたという印象です。くわみず病院草創期を作った方でもう少し熊本県民医連を見守つてほしかつたです。



稻富さんとの出会いは、くわみず病院に入職した26歳の時です。くわみず病院は、開設後半年で、最初は3階病棟勤務でした。看護体制も厳しく、月に14回から15回の夜勤をしていました。朝、仕事にいくと急に休んでいる看護婦さんがいたり、とても混乱していたと思います。その中で稻富総婦長は、冷静で仕事も丁寧にされておられた印象です。あの病院立ち上げの厳しい時代を芯を曲げずに頑張り抜かれたのではないかと尊敬しています。

その後、私は、稻富総婦長の後を引き継いで約4年間総婦長をさせていただきましたが、その時も看護婦不足が長く続き大変でした。総婦長を交代してからも、いろいろ教えていただき感謝しています。

個人的な思い出は少ないので、大変お世話になりました。

研修医に見せるために胃カメラ受診

田邊菜穂子

くわみず病院に入職した41年前、稻富さんは総師長さんだったと思います。外来看護師がやっていた内視鏡助手を検査技師が引き継ぐ事になりました。私が主に担当していました。稻富さんは胃を切除されており、定期的に検査を受けていらっしゃいました。その際切除後の胃がどうなっているか、研修医に見せるため施行はいつも胃カメラに慣れてない研修医でした。40年前はまだ鎮静剤も使わず今より大きなファイバーで、研修医が何十分も入れてるんですよ。気の毒にと思いながらも、総師長さんは偉いなーと感心したものでした。当時研修されたドクター方は覚えてらっしゃるでしょうか?感謝しかないですね。

芳和会の発展に尽力された稻富さん、安らかにお休みください

「ナースアクションの先頭にたたれた先輩」 川上和美

(芳和会看護部長・全日本民医連副会長)

私は入職してから稻富さんと一緒に仕事をした経験はなく、稻富さんが退職をされた後に「元看護部長さんよ」と、ご紹介いただいたご挨拶したのが初めてだったよう思います。

でも、はじめてお会いした時の稻富さんの凛とした姿がとても素敵で印象的だったこと、とても優しい口調で語りかけていただいたことを覚えています。

私が2018年から全日本の理事になつてから、ある日病院の玄関でお会いした際に駆け寄つてきてくださつて、「聞いたわよ、全国の理事になつたと、素晴らしい、とても誇らしいことだわ」と言つてくださつて、とても嬉しかつたことも覚えています。

それが、稻富さんと言葉を交わした最後の会話になつてしましました。本当は理事になつて不安でいっぱいだつたのですが、喜んでくれる人がいるのだと、稻富さんの言葉に救われた気がしました。

本当にありがとうございました。もっとちゃんとお礼を言つておけばよかつたと後悔しています。

最近、1991年1月1日発行の民医連医療誌を手にすることができ、そこには稻富さんが「熊本の看護婦増員運動」について寄稿されていました。1990年代の看護師不足の問題に対し、県議会への陳情や熊本県看護婦を増員させる会（増やす会）発足、多くの団体とつながり運動を広げ、川嶋みどりさんの講演会やデモ行進など、大変旺盛に粘り強く取り組まれており、まさしく、私たちが現在取り組んでいるナースアクションだと感慨深いものがありました。

いつの時代も決して楽なことはなく、看護のケア実践が豊かに大切にされる環境を常に自分たちで守り・たたかいながら積み上げてきた熊本県民医連の看護の歴史の延長線上に私たちがいるのだと感じることがで

きました。

稻富さんは、私たちのナースアクションをどんなふうにみててくれるでしょうね。もつとアドバイスを頂けたらよかつたなと思います。これからも、熊本県民医連の看護は、若い力と先輩たちの経験知があわさつて、切り開かれ、受け継がれていきます。どうか見守つてくださいね。



まだ、母が逝つてしまつたことをきちんと受け止められずにいる自分がいます。でも母自身は、少し早かつたけれど、いい人生だつたと思つてゐるよう思います。納得のいくまで好きな仕事をして、退職してからは、やりたかつた絵を習い、



## 縮富様の長女浩子さん 次女美弓さんからのメッセージ

長女・浩子

まだ、母が逝つてしまつたことをきちんと受け止められずにいる自分がいます。でも母自身は、少し早かつたけれど、いい人生だつたと思つてゐるよう思います。納得のいくまで好きな仕事をして、退職してからは、やりたかつた絵を習い、

大きな作品にも取り組みました。地元のサークルでは太極拳を楽しみ、教えることもあつたようです。とりわけ職場の同僚だつた皆さんとの旅行は、行く前からずっと楽しみにしていました。私もベトナム、カンボジア、台湾の旅行に「一緒にさせていただきましたが、母は「どこに行くか」より、「皆さんと行くこと」が楽しかったのだと思います。夜、どなたかの部屋に集まつて、身近な話から社会の話まで、同じ志を持つ、気心の知れた皆さんとのおしゃべりも本当に楽しそうでした。母の人生に彩りを添えてくださつたすべての皆さんに、心から感謝申しあげます。

### 次女・美弓

希望ヶ丘診療所の皆さん、この度、母のための会を開いていただきありがとうございます。母にとつて、皆さんと一緒に働けたこと、職場が変わつた後も支えていただき、そして退職後も旅行など一緒に緒させていただいたこと、すべてが母の大切な時間だつたと思います。希望ヶ丘に母が勤めていたころは、まだ私も小学生で、忙しい母にもつと甘えたい気持ちもありましたが、診療所の皆さん行事などにも参加させていただいて、皆さんに甘えて可愛がつていただいたことを覚えております。母にとつては皆さんがホームであり、皆さんに見送つていただけることを心から喜んでいると思ひますので、母のことを思い出していただけるどうれしいです。



健康友の会合同学習会

2018年12月19日健軍にて忘年会



ベトナムにて



2017年2月25日南熊本にて





希望ヶ丘旅行団+αの集い、これが最後の稻富様参加のランチ会であつたでしようか。旅の話から日常の話、政治まで多彩な話題が飛び交いました。カメラに向かつて皆さん笑顔の記念写真。

旅仲間を送る立場で・・・

職場のつながりで、ずっと旅を「一緒する」ということは、きっと珍しいのではないでしようか、旅から帰つて半年もすれば夏か冬の交流会、その場で「またどこか行くばい」と田中さんが声を掛けます。旅先探しは長谷川が担当です。特に格安旅行（上海2万9千八百円）とか目玉の旅を探して申し込みます。韓国では緑色病院見学を入れました。パク先生（朴賢緒理事長）やイム先生（現緑色病院院長）などの歓迎も受けました。年金暮らしでも行ける旅が最近は少なくなりましたが、2019年までは、結構手軽に行けました。

コロナも下火になつたので、熊本発での台湾、韓国、沖縄への旅をそろそろ検討しようとした矢先での稻富様の訃報、とても残念でたまりません。これまでご一緒に旅の思い出があることがせめてもの救いです。  
散る桜 残る桜も 散る桜 と良寛和尚も言わわれています。早いか遅いかの違いです。あちらでまた宇宙旅行に一緒に出かけて宇宙料理を楽しみましょう。



2025年6月11日 希望ヶ丘診療所OBを代表してお参りしました。



民医連医療誌  
1991/01/01

熊本の看護婦増員運動

## 県需給計画の見直し、看護学校

### 新設などを勝ちとる



畠富紀美江 熊本府厚生課課長

「ちょっとをもつて、心豊かな  
これはすべての看護婦の願いで  
あります。」

す。

しかし現実は非常にきびしく、  
「意欲の無策による看護婦不足  
は今や大きな社会問題にになり、  
看護婦（国民・患者）が健康で文  
化的な生活を営む権利が大きく侵  
害されきております。」

熊本の「看護婦不足と看護に関する  
フレーム」で、フランスの  
元看護婦がいいました。

「ランスの看護婦は、一ヵ月

の長期休暇休むなど、日本

の看護婦に比べる所段に遅れ

る条件で働いています。そんで、

途中でやめる、など誰もい

ません。」この条件は、手

られたものではなく、自らたた

かいたもののです。

その後のステップにでき

ればいい。熊本では毎日の看

護婦増運動をふりかえってみま

した。

した。

は、そしてさあ

ねがやめだ。等々と看護不足

話題にはつきません。

一九八八年八月に作成された熊

本東の「看護職員需給計画」の積

算基礎は次のようになっています。

「病院の病床数を五〇床とし、

二・八体を確保する実際は最低

で一七名必要」ICU、CCU、

38

民医連医療222

1991・1

民医連医療222

熊本民医連O B会

第二回文化祭での稻富様の絵画展示

中央の男性は稻富さんのお父さんでしょうか  
二〇一八年十二月



芳和会O B会の文化祭風景



## 稻富紀美江様を送る会開催 6月20日

当日司会担当の吉尾邦子さんは稻富さんの直属の看護師として希望ヶ丘診療所時代とくわみず病院時代に一緒に締めた。その後、退職後の希望ヶ丘O B 中心の旅仲間で、時々食事会などを企画してきた。2023年5月7日、西原村AZULにて行つたランチ会での送迎が最後の機会だったような気がする。そのとき遺言めいた言葉を二つ遺された「診療所仲間だったYさんと会わないまま病死してしまったこと。もう一度会つていればよかつたのに」「初代診療所所長M先生が小児科の研修希望を出されたのに、代わりの医師が居ないと言つて研修に出すことができなかつた」こと。「今思えば、なんとか研修に出ておけばよかつたと後悔している」というお話を帰りの車の中で聞いていた。二つの叶わなかつたことへの拘りは、あれは稻富さんの最後の遺言だったのかもと吉尾さんは思ったそうです。

その診療所時代の医師不在の時、小児科受診にお出でになつた親子を近くの小児科と一緒に出掛けて玄関まで案内されていたことを吉尾さんは思い出と語っていた。患者さんには最後まで寄り添われていた。

大柄さん制作の記録動画は特に参加者の心を掴みました。それは稻富紀美江様へのインタビューでした。





## 稻富正浩様の挨拶から・・

いつも妻に先を越されていた。経済面でも支えて貰っていたと語る 紀美江様の夫 稲富正浩様は動画を観て、全然知らなかつたことがあつたそうです。勤務時間は睡眠時間を削つて注いできた看護部門のトップとして、特にくわみず病院を初期から育ててきた愛情が最後まで貫かれていたこと。「最期にはくわみず病院で（死にたい）」という言葉が重く伝わってきました。それは育ててきた病院という愛着がその希望になつたのでしよう。残念ながら、それは叶わなかつたことでした。

今回入所からは「亡くなりました」という電話にビックリされ、最後の面会も出来なかつたことが心残りでした。せめて危ないときは事前の知らせがあるのが普通と、紀美江様と交流のあつた他県の看護部長だった方からの怒りの発言があつたことを報告されていました。

葬式は家族だけで行つたが、今回この偲ぶ会に集まつてくださつた方の話が聞けて、とても感動したと皆様に感謝されていました。



記録動画撮影時の稻富さん

## インタビュー風景



高校生一日看護婦での

## TV インタビュー風景

司会は吉尾邦子さん、開会挨拶と献杯を田中克己さん担当  
黙祷を捧げ、献花をし、偲ぶ会の祭壇が綺麗な花に囲まれたあとは、  
参加の皆様の稻富様との思い出が語られました。



### 偲ぶ会参加者の声

O\* 「おつかれさまでした。みんなそれぞれの意見が出ていたし、苦しかった時期のことをよく伝えて頂き、非常に良かったです。」

I\* 「感動的な偲ぶ会ありがとうございました。つくづく稻富さんの偉大さを心に刻んだ一日でした。」

Y\* 「くわみず病院創設の頃の話が色々聞けて良かったです。ご主人も喜んでくださって良かったです」

H\* 「今日は稻富さんを偲ぶ会に参加させて頂きありがとうございました。貴重な一時となりました。」

T\* 「今の若い看護師に話しても分かってくれないだろうけど、ビデオをみて先輩のことを少しでも学んでほしい」



黙祷



思い出を語る



この会では稻富紀美江様ご本人のビデオメッセージが流れて感動的でした。困難な熊本民医連時代を振り返りそれでも「最期はくわみず病院で」という言葉もありました。まるで自分が育ててきた子どものような病院で、という意味もあったのでしょう。上映された記録動画の撮影・編集は大楠学さんによるもので特に感謝申し上げます。

稻富正浩様が奥様との思い出を語られ、この会へ参加の皆様に感謝され、偲ぶ会を終了することが出来ました。メッセージを寄せて頂いた方、参加頂いた方ありがとうございました。後に娘さんの浩子様より、生前の母の希望は知り合いが花を捧げてくれること、それだけでよいとのことでした。その願いは叶いましたね。

なお会費の一部をお盆の頃、線香代として贈ることを了承くださいますようにお願いします。



献花





西原村小森のギャラリーカフェAZULにて開催

## 偲ぶ会への御礼 娘さんから

参加者・稻富紀美江さんとの関わり

稻富正浩

夫

渡辺孝宏 希望ヶ丘診療所 旅仲間

渡辺翠 旅仲間

渡瀬廣之 旅仲間

大槻弘子 くわみず病院

看護師

旅仲間

山本隆憲 くわみず病院

芳和会本部

希望ヶ丘診療所

旅仲間

田中克己 希望ヶ丘診療所

旅仲間

吉尾邦子 希望ヶ丘診療所

旅仲間

西原陽子 芳和会本部

希望ヶ丘診療所

くわみず病院

旅仲間

丸岡宏子 芳和会本部

希望ヶ丘診療所

くわみず病院

旅仲間

吉田京子 芳和会本部

希望ヶ丘診療所

くわみず病院

旅仲間

濱松いくみ 看護師

希望ヶ丘診療所

旅仲間

石原須摩子 看護師

希望ヶ丘診療所

旅仲間

小林久美子 看護師

希望ヶ丘診療所

旅仲間

今村須美子 看護師

希望ヶ丘診療所

旅仲間

渡辺明美 看護師

希望ヶ丘診療所

旅仲間

長谷川博 看護師

希望ヶ丘診療所

旅仲間

父に聞いたら、結局、ごあいさつの場でも言わなかつたみたいですが、生前・母は、自分が死んだときはお経もいらないし、葬儀は簡素でいいから、親しい仲間の皆さんに1輪ずつお花を手向けてもらえたらしいなあと書いてたらいいんです。

「そんなことをこちらからお願ひするわけにもいかないし……」と思つていたら、

このような会を開いていただることになつて本当にうれしかつたと言つていました。

当日、皆さまから色とりどりのお花を手向けていただいて、写真の母もうれしそうに見えます。

本当にありがとうございました。

当日ご参加くださつた皆さんにも、

機会があれば、くれぐれもよろしくお伝えいただけると幸いです。

稻富浩子

# 「稻富紀美江さんを偲ぶメッセージ 集」2025年6月27日発行

\*追加のメッセージや文書で不都合なところがあれば連絡ください。  
すぐに修正し再アップします。WEB冊子の便利なところです。一年ほどはこのままのURLからダウンロード出来るようにしておきます。

1) メッセージ投稿できます。

<https://azul.daa.jp/diary/wp-content/uploads/2025/06/memoryofinadomi.pdf>

1981年くわみず病院完成間近  
← 手前は解体前の熊本保養院



→ 盆踊り準備



## 希望ヶ丘診療所OBプラス有志 で作ったWeb冊子

写真提供 渡辺孝宏・大楠学・吉尾邦子・健康友の会、高木裕一  
動画提供 大楠 学  
文集編集 長谷川博